

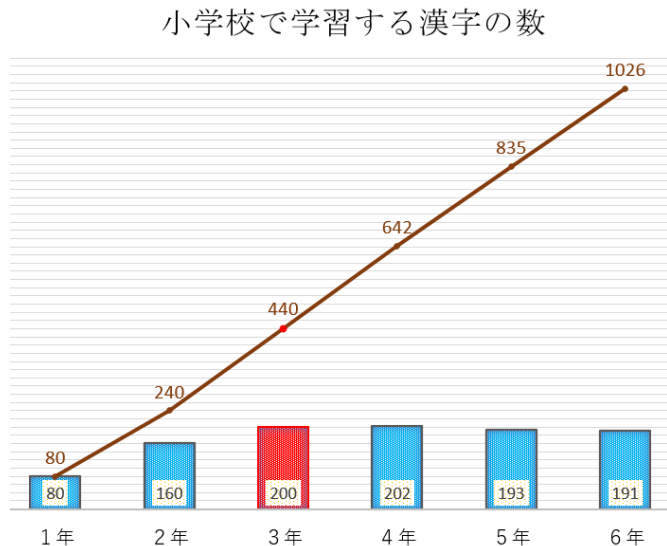


ニュージャーニー 補習授業校通信

土曜日は日本の教育を

小学校で学習する漢字の数

「坂、悲、岸、路、区、陽、泳」これは初等部三年生が先週、八月二十二日に新しく学習した漢字です。三年生で学習する漢字は二百字あります。毎回新しい漢字が出てきてそれを書けるようになるまで練習するのは努力が



必要です。上の図では、各学年で学習する漢字数を棒グラフで、一年からその学年までに学習する漢字の総数を線グラフで表しています。六年生が終了する時点で学習する漢字の総数は千二十六字になります。これらの漢字を教育漢字ということもあります。

三年生から急に難しくなってきたという声を聴くことがあります。グラフが示すように初等部一年から三年生までで覚える漢字の総数は四百四十字になります。こうやって書くと、大変さだけが目立つようですが、実は漢字はある程度覚えていくと覚える速度も増していきます。

例えば「坂」の字ですが、「つちへん」を「きへん」に代えると「板」に、「しんにょう」に代えると「返」になります。「坂」、「板」、「返」いずれも初等部三年生で学習する漢字です。まったく別の字と考えずに作りの「反・ハン」がそりかえる意味を持っていることが分かっていけば覚えやすくなります。辞書で漢字を調べてみると「なりたち」といってどうしてその字ができたのか、説明があります。ただ書き取り練習をするだけでなく、漢字の「なりたち」を調べてみると面白いかもしれません。ところで泳ぐという字はさんずい（水の意味）と永（ながい意味）からできています。なぜ「およぐ」ことになったのでしょうか。

2期の授業初日、元気に取り組みました

八月二十二日の授業、長い夏休み明けでしたが、みんな元気に参加していました。

オンライン授業は画面にはつきり一人一人の授業に取り組んでいる様子がわかります。

先生が話している時は、カメラに視線が集まるので、子供達の表情がよくわかります。

また、テストの場面ではテスト用紙に視線を落とします。画面上では子供達の頭の部分が映るので、テストに取り組んでいる様子が分ります。



一例を紹介します。初等部一年生は「かんじドリル」の順に、毎週四から六字の漢字を学習します。（写真）
そして、翌週にテストを行います。一年生の皆さんは先生のお手本を見ながら「木」、「大」などドリルの漢字に取り組んでいます。

集中して取り組ん

でいましたが、授業中に練習できる時間は限られています。家庭で復習することの大切さを感じました。

第十一号

令和二年

八月二十八日

発行